

富士本西の一本杉

昭和六十三年十一月五日号

大淵・富士本西のヒノキ林の中に、静かにたたく大きな一本の杉の木があります。

今回はこの一本杉の話を河野政信さん（富士本西）に語っていただきました。



どこからも見えた杉

昭和二十五・六年ごろまで、富士本と鷹岡や杉田（富士宮市）をつなぐ大切な道がありました。私が子供のころでも、人々は馬に米や麦を背負わせ、杉田のすりや（精米所）に行ったり、遠足といえは必ずその道を通るといふ重要な生活道路でした。

その道の目印となつたのが、一本杉です。当時の富士本周辺は、畑が多く、道のわきにスツと伸びた一本杉は、大層目立ちました。その姿は富士や吉原の町からも見る事ができました。

遠足で聞いた由来

実相寺へ遠足に行つた帰りのことです。私
たちは一本杉にたどり着くと、木陰で休憩し
ました。

すると、いたずら坊主が一本杉におしっこ
をしました。それを見ていた先生は「こらっ」
と注意し、この木の話をしてくれました。

「昔々のこと、ある夫婦が道に迷つてしま
いました。お田さんはおなかに赤ちゃんがいた
ので、やつとの思いでここまでたどり着きま
した。ところが急に生まれそうになり、その
場で生みましたが、赤ちゃんは既に死んでお
り、お田さんも亡くなつてしまいました。お
父さんは遺体を運ぶこともできず、その場に
穴を掘り、手厚く葬りました。そして一本の

杉を植えました。それがこの杉だよ」

元気がなくて残念

現在の杉は高さが約三十メートルありますが、周
囲をヒノキに囲まれ、まったく目立ちません。
また、雷に木の半分をそがれてしまい、元気
がないのが残念です。



現在の一本杉